

令和4年度緑の基金事業報告

(第39年度)

令和4年4月 1日から
令和5年3月31日まで

I 森林、林業の啓発と緑化事業

令和4年度も、長引くコロナ禍の中で、これまでの最大規模となる第8波に見舞われ、県民の移動の自粛、行動の制限、人との接触機会の回避等が求められ、事業活動、行楽・興行活動などが思うようにできない状況にありました。

こういった中で、事業を推進するに当たっては、新型コロナウイルスの感染状況を注視しつつ、予防対策を徹底的に講じた上で、地域の実情やニーズに合わせ創意工夫しながら、森林の整備や身近な生活環境の緑化等に関する実践的活動を行いました。

また、これらの事業を推進することで、SDGsの達成にも貢献できるよう努めました。

1 情報誌等による広報、普及宣伝

森林・林業及び環境緑化に対する県民の更なる理解を深めるため、次の事業を実施しました。

(1) 情報誌の発行等

ア 情報誌の発行等

基金業務、森林・林業及び環境緑化等について、県民の理解を深めるため、4月の緑化シーズンに併せて緑化キャンペーンを行ったほか、新聞広告、機関誌の発行等を行いました。

長野県植樹祭及び基金事業の森林教室の告知広告の実施（4月）

機関誌の発行「緑の基金」No.38（10月） 3,000部

イ 緑の情報サービスの推進（ホームページによる情報発信）

当基金が関わる各種行事、森と水の絵本のPR、緑の募金公募事業の実施状況、緑の募金の使途報告など、ホームページを用いて情報を発信し、広く県民の森林づくりや環境緑化への実践参加を促進しました。

ホームページ「長野県みどりの情報サービス」トピックス提供 25回

ウ 森林と水をテーマにした絵本づくり

子どもたちがふるさとの森林と川と人との関わりについて、思いを深めることができるようにとシリーズ化している絵本「木が伝えてくれる物語」の第9作目（森のくまさんシリーズの4作目）を令和4年度末までに発刊し、県内の全小学校、特別支援学校をはじめ、第9作目の舞台となった大北地域の保育園、幼稚園に謹呈しました。

また、既に発刊した第2作目「おおまきの唄がきこえる」は、在庫がない状態だったため、令和4年度中に復刻版として再発刊し、題材となった阿智村清内路をはじめ、下伊那管内の保育園、幼稚園に謹呈しました。

2 県民の集い等の開催

(1) 第72回長野県植樹祭の開催

令和4年度から、長野県植樹祭は、県民が森林の整備活動に参加する機会をより多く広範囲に提供するため、開催地・日程を分散して開催することとなりました。

当基金は、県植樹祭佐久会場の主催者と共催して、令和4年6月11日（土）、北佐久郡立科町の南平公園において、第72回長野県植樹祭を実施しました。

(2) 森林教室の開催

県植樹祭佐久会場において、同日、当基金主催の森林教室（自然観察会）を開催しました。

応募された35名の参加者は、午前中は県植樹祭に参加し、午後は白樺湖近くの「御柱の道 トレッキングコース」で自然観察会を体験しました。

(3) 地区緑化推進団体による森林の感謝祭などの開催

緑と水の森林ファンド事業（国土緑化推進機構事業）の助成を受け、地区緑化推進団体の実情に合わせて森林の感謝祭、植・育樹などの体験型行事等を計画し、新型コロナウイルス感染症対策に配慮しながら、規模の縮小や取り組み内容等を創意工夫して実施しました。

3 講演会の開催等

(1) 緑に親しむ集い

樹木観察や木の実を使った工作など様々なふれあい体験を通じ、県民が森林や森林の恵みに親しむとともに関心を深めることができるよう、県林業総合センターの体験学習施設と共催で、定期的に森林整備作業、自然観察などを取り入れた様々な体験型の集いを開催しました。

実施状況：年間18回開催 参加者233組422人（うち子ども119人）

(2) 森林フォーラム

成熟した森林資源の利活用と森林の二酸化炭素吸収量の増加に向け、主伐・再造林に関する地域や林業関係者の気運の醸成を図るため、「森林フォーラム」を長野県、林業関係団体等と共催して実施しました。

開催テーマ「新たな森林・林業に向けての地域からの提案」

開催日 令和5年2月15日（水）

開催場所 県立長野図書館（オンライン併用開催）

参加者 約150人

4 森林づくり等実践参加の促進

(1) 林業関係等コンクールの開催

林業関係等コンクールを長野県、林業関係団体等と共催で実施し、健全な森林づくりや環境緑化等に係る様々な活動や成果を顕彰し、県民の実践参加の促進を図りました。

ア 長野県ふるさとの森林づくり賞及び長野県林業関係ポスターコンクールの開催

森林づくり、森林環境教育などに優れた功績があった方の顕彰や小・中学校、高等学校の児童・生徒への環境緑化思想及び野生鳥類の保護思想の高揚を図るためのコンクールを長野県、林業関係団体と共催で実施しました。

なお、表彰は、地域振興局ごとに伝達式を行いました。

・長野県ふるさとの森林づくり賞

| | | |
|------------|-------------|------|
| 森林づくり推進の部 | 長野県緑の基金理事長賞 | 該当なし |
| 森林環境教育推進の部 | 長野県緑の基金理事長賞 | 該当なし |

・長野県林業関係ポスターコンクール

| | | |
|-----------------|-------------|-----|
| 国土緑化・育樹運動ポスターの部 | 長野県緑の基金理事長賞 | 7名 |
| 野鳥愛護ポスターの部 | 長野県緑の基金理事長賞 | 10名 |

イ 木工工作コンクールの開催

小・中・特別支援学校の児童・生徒が木に触れあい木を身近に感じ愛着を持ちながら、森林の大切さや役割を学び木の文化を大切に作る心を育てるため、身近な木材を活かして自由な発想で創作した木工工作作品のコンクールを長野県木材青壮年団体連合会と共催で実施しました。

表彰式 令和4年11月26日(土) 長野県立美術館

長野県緑の基金理事長賞 1作品

応募作品数 4,017点 参加校数 116校

(2) 森林環境教育指導者研修会の開催

子どもたちが自然に親しみつつ森林の役割や森林づくりの重要性などについて体験的に学習できるよう、長野県の森林の現状をはじめ、森林環境教育に関する知識や森林に親しみながら理解する手法等の研修会を教育指導者である教職員を対象に計画しましたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から中止としました。

なお、3年連続して中止になった研修会の代替事業として、食環境教育をメインテーマとしたオリジナルカルタの原作者である市川冬萌さん(令和3年度時点で諏訪清陵高等学校3年生)と連携して、令和3年度からカルタの制作をすすめ令和4年度中に完成しました。

令和5年度以降の研修会の教材としての活用を検討していきます。

5 都市緑化等の環境整備

(1) 学校環境緑化モデル事業 [国土緑化推進機構・直接事業]

学校環境の緑化を通じて、青少年への森林環境教育を推進することを目的に、小中学校敷地内及び周辺環境の緑化、環境教育のフィールドの整備(樹木の植栽・芝生化、樹木の手入れ、ピオトープ等)の取り組みに対し助成しました。

令和4年度実施校 ・白馬村立白馬南小学校 ・須坂市立須坂小学校

(2) 学校林を活用した森林環境教育促進事業 [国土緑化推進機構・直接事業]

学校林を活用して、小中学校の森林環境教育(林業体験活動を含む)を促進するため、森林環境教育を学校と連携して行う団体等に対し助成しました。

令和4年度実施校 ・大町市立大町西小学校

(3) 緑の少年団活動促進事業 [国土緑化推進機構・直接事業]

地域単位で活動している緑の少年団等を主な対象として、学習活動等の充実・促進、指導体制の整備、育成会の結成の促進に対し助成しました。

令和4年度実施少年団 ・ 奈川小中学校みどりの少年団・白馬南小学校みどりの少年団

(4) 子どもたちの未来の森づくり事業 [国土緑化推進機構・直接事業]

未来の子供たちに豊かな国土を引き継ぐために、小中学校生の「森の学び」を支援するとともに、森林環境教育のフィールドとして地域のシンボルとなる森づくりの取り組みに対し助成しました。

令和3年度長野県緑の基金推薦 2団体 国土緑化推進機構交付決定 2団体

6 基本財産の運用益

基本財産の運用益については、受取利息収入として当初予算 1,938,180 円を見込んだところ、決算額は 2,760,851 円と増額になりました。これは、超低金利政策が長期化している金融情勢の中で、アメリカのインフレ抑制のための金利引き上げが、日本にも影響し長期金利が上昇傾向にあったため、額面1億円の債券（財投機関債）を令和4年8月に購入したことによるものです。

7 出捐金の内訳

令和4年度末

5億8,985万6,019円

(前年度よりの増加額)

0円

〈内訳〉

| | |
|------|----------------------|
| ・長野県 | 150,000,000円 (25.4%) |
| ・市町村 | 123,000,000円 (20.9%) |
| ・民間 | 316,856,019円 (53.7%) |

Ⅱ 緑の募金事業

「長野県ふるさとの森林づくり条例」の基本理念にある「県民の理解と主体的な参加」を念頭に、「緑の募金」運動を積極的に展開し、森林づくりとみどりづくりの大切さの普及啓発に努めました。

4月1日から5月31日までの「緑化推進特別強調期間」を中心に緑を守り育てる緑化意識の向上を図るため、募金目標額を7,700万円に設定し緑の募金活動を実施しましたが、令和2年、令和3年に引き続き、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、街頭募金や家庭募金などの活動制限を余儀なくされました。一方で、あらたな企業募金の開拓等を行った結果、募金実績額は令和3年に比較して183万円減額の7,282万円余となりました。この減少は、コロナ禍の影響だけでなく、市町村で実施していただいている家庭募金のあり方を見直す動きも要因となっているものと考えます。

なお、県内各地区の実情やニーズに応じた森林の整備、緑豊かな生活環境づくり、次代を担う子供たちの育成などを推進する際は、事業規模を縮小して少人数化したり、コロナの影響を受けにくい事業に移行するなど創意工夫しながら、事業執行に努めるとともに、みどりの少年団が行う森林・環境緑化等の学習実践活動を長野県みどりの少年団連盟を通じて支援しました。

1 緑の募金活動事業

(1) 緑化推進の啓発宣伝

ア 広告、CM等キャンペーン

緑化思想の普及啓発のため、新聞各社への緑化広告の掲載、ラジオ等によるPRを「緑化推進特別強調期間」を中心に実施しました。

- ・ 新聞広告掲載 4月1日（信毎、朝日、毎日、読売、中日、産経）
- ・ 市町村広報への掲載依頼（市町村ごとの特徴的な緑化活動を特集記事の掲載）
- ・ ラジオCM 4月1日～4月14日（14日間）AM、FM 各1社
- ・ 高校生による県知事・副知事訪問（緑化運動への協力要請 4月1日） 中止
- ・ 長野駅周辺での街頭募金（5月連休） 中止
- ・ 「長野の林業」（長野県林業普及協会）募金広告（7月号、1月号、3月号）

イ 緑の相談

県民の緑の保全、緑化木等への理解と関心が深まるよう、身近な緑化樹木の衰弱や病虫害等樹木に関する相談に対して迅速に対応する相談窓口業務を実施し、樹木医等に委託して初期診断を行いました。

相談窓口 地域振興局林務課

診断委託先 （一社）日本樹木医会長野県支部、（一社）長野県造園建設業協会

ウ 企業等と連携した募金活動

- ・(一社)長野県環境保全協会の協力を得て、会員企業約 400 社に募金の依頼を行いました。
- ・令和 3 年度から新たに、長野県 SDG s 推進企業登録制度に登録された企業約 1,600 社に募金依頼を呼びかけました。
- ・自動販売機システムでの募金について、あらたに自動販売機設置業者 ベネフレックス(北陸コカ・コーラ)を追加しました。

(2) 募金資材の購入

募金活動の効率的な展開を図るため、緑の羽根、オリジナルピンバッジ、ストラップ、募金箱等の募金資材の購入や募金PRのためのチラシ、家庭募金用封筒の作成等を行いました。

(3) 募金活動の推進

令和4年の緑の募金額 7,700 万円を目標に緑の募金活動を行いました。

特に、「緑化推進特別強調期間」を中心に、チラシ、新聞などを利用し広く緑の募金を呼びかけつつ、家庭募金、企業募金、職場募金、街頭募金などの募金活動を県・市町村等行政機関、地区緑化推進団体、みどりの少年団等と連携し、展開しました。

4月1日(金) 県庁内で募金の呼び掛け

4月5日(火) 長野県林業センタービル内を巡回して募金の呼び掛け

10月16日(日) AC長野パルセイロホームゲームで長野Uスタジアムにおいて、中部森林管理局、上伊那山林協会、長野地方緑化推進委員会、県林務部等の協力を得て街頭募金を実施

2 公募事業の実施

特定非営利活動法人等緑の募金公募事業の要件を満たす団体が、環境緑化、森林の整備、木材の利活用、野生動物との共生など公益的な活動を推進するために行う事業を公募し、内容を審査の上、交付金を交付しました。

また、事業者には緑の募金により事業を実施したことを明示するよう依頼しました。

交付対象 18 団体 当初交付決定額 200 万円(変更後 187 万円) 交付確定額 187 万円

3 緑化の推進等

(1) 森林の整備

森林整備についての県民の意識の向上と理解を深めるため、植栽、下刈、除間伐などの森林整備に要する苗木・作業用具の購入、指導者の謝金、傷害保険等の経費に対して助成しました。

(2) 森林整備講演会・研修会等の開催

森林づくりの重要性、地球温暖化防止に係る森林の役割等の周知を図るため、各地区で

行われる講演会・研修会の開催に要する経費、松くい虫予防活動等に助成しました。

(3) 公園等公共施設の緑化

ア 学校緑化

学校内環境の緑化、学校林の整備等のため、苗木購入、作業用具購入、指導者謝金等の経費を助成しました。

イ 公園等公共施設の緑化

公園、公民館、福祉施設等の公共施設の環境緑化を図るための苗木購入、作業用具購入、指導者謝金等の経費を助成しました。

(4) 苗木の配布

生活環境の緑化や緑に関心を持ってもらうことを促進するため、緑化木頒布会の苗木等の購入の経費を助成しました。

(5) 植樹・育樹祭等行事

森林を守り育てる意識の高揚等を図ることを目的に地区緑化推進団体や市町村等で行う植樹・育樹祭等行事の開催の経費を助成しました。

(6) コンクール・表彰等

森林・林業のPR及び緑化思想の普及啓発を図るための各種コンクール及び緑化功労者の表彰式等の開催に係る経費を助成しました。

(7) 令和元年東日本台風等災害支援事業【国土緑化推進機構・直接事業用途限定募金活用】

令和元年台風19号の災害に遭った被災地の復旧・復興に向け、植樹や木製椅子等の贈呈など緑化等を通じて支援しました。

- ・長野市立豊野西小学校 ・上田市真田地区 ・飯山中央幼稚園
- ・長野市立長沼小学校

4 みどりの少年団育成

次代を担う少年たちが、自然とのふれあいを通じて、森林・林業の重要性を理解し、緑を愛し育てる心を養い、人間性豊かな健康で明るく育つよう、県内のみどりの少年団が行う森林・環境緑化等の学習実践活動について、長野県みどりの少年団連盟を通じて助成するとともに、地区ごとの特性・実情に応じて地区緑化推進団体からも少年団に対し活動助成金等を交付する等、みどりの少年団の実践活動及び結成促進を支援しました。

なお、長野県みどりの少年団連盟では、コロナの影響により、3年連続で長野県みどりの少年団交流集会は中止となりましたが、令和3年度と同様に「みどりの少年団指導者スキルアップ研修」を開催しました。

また、コロナ禍であっても少年団活動ができるよう、令和3年度の中途から出前講座を開設し、学習実践活動の機会を確保する支援を行いました。